

学 会 報 告

歯学会の現況（総会、第一回例会）

4月17日に総会、7月10日に第一回例会が開催された。

総会には10題、第一回例会には12題の一般演題が発表され盛会となった。総会特別講演には福岡大学医学部歯科口腔外科学 都 温彦 教授に「歯科心身医学の臨床」と題する講演をして頂いた。第一回例会時には教授就任講演として、口腔外科学第二講座 高木 律男 教授に「顎関節症治療の現況と今後の展望」と題する講演をして頂いた。

総会において 原 耕二 前副会頭が名誉会員に推挙され、第一回例会において授与式が行われた。

新しい試みとしてインターネットを介しての中継、および記録が行われた。この記録は事後でも参照可能である。詳細は [www \(http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/\)](http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/) の第一回例会のページを参照のこと。

会の運営に関して概略を述べると、歯学会を学外に広げる目的で、他大学の会員も評議員に就任できるように規定の改訂を行った。学生会員を設定して学部在学中の学生にも発表・参加を容易にするような検討を行っている。年度変わりにおける事務引き継ぎに支障がないように、雑誌の発行を年度内に行えるような努力をする(締め切りを厳しく)。などが主な動きである。

新潟歯学会庶務幹事 小林 博記

* * *

第37回日本口腔科学会、 第25回日本口腔外科学会北日本地方会

口腔外科学第一講座 新 垣 晋

5月20、21日の両日、第37回日本口腔科学会、

第25回日本口腔外科学会北日本地方会が新潟県歯科医師会館において、口腔外科第一講座中島民雄教授を会長に開催された。

本学会は地方会ですが年一回開催される北日本地区8道県にわたる学術集会であり、顎口腔領域の腫瘍、奇形・変形、外傷、炎症など様々な疾患に関する研究成果を報告し、意見交換を通して口腔科学及び口腔外科学の進歩発展、新しい知識・技術の普及を計ることを目的としている。

今回の学会では腫瘍性疾患27(悪性腫瘍12、良性腫瘍15)、奇形・変形症5、嚢胞性疾患7、炎症10、粘膜疾患5、顎関節疾患4など一般演題68について、これらの疾患の診断や病態と治療方法を基礎的及び臨床的に研究した成果が報告され多くの質疑応答がなされた。特に悪性腫瘍では高齢口腔癌患者の治療成績、末期癌患者の疼痛管理を含めたターミナル・ケアについて討論がなされ会員の関心が高いことが伺われた。

特別講演は新潟大学歯学部口腔病理 朔 敬 教授より“唾液腺多形性腺腫の組織構築 -診断の背景としての生物学的特性-”があり、病理診断、画像診断の精度をあげるためには病変の生物学的特性の理解が重要であることが強調された。又、シンポジウムで取り上げられた睡眠時無呼吸症候群は隠れた成人病としてマスコミ等でも注目されている疾患で3名の講師より“睡眠障害とその問題点”、“いびき外来の現状と診断”、“いびきの外科治療”、“口腔内装置によるいびきの治療”の講演があった。専門外来として歯学部附属病院ではほとんど設置されていない“いびき外来”が現在稼働している新潟大学附属病院の最新の研究結果は会員に大きなインパクトを与え、今後ますます多くの施設で研究、治療が行われていくものと予想された。

会員懇親会では普段なかなか口にできない“新潟の地酒”が数多く出され、またその“きき酒”も行われ、会員には大好評であった。

次期学会は平成12年4月20、21日盛岡市(岩手医科大学歯学部)で開催される予定です。